

# なごみつつうしん

発行日：平成28年4月25日（第16号）

発行：島田療育センターはちおうじ

「何で勉強しなければいけないの？」外来で、子どもたちに聞かれることがあります。そんなとき、どう答えますか？勉強の意味について考えてみましょう。

所長 小沢 浩

## ～勉強について～

「知的能力障害」という言葉を知っているだろうか。知的能力障害とは、アメリカの精神障害の診断と統計マニュアル（DSM-V）によると、「発達期に発症し、概念的、社会的、および実用的な領域における知的機能と適応機能両面の欠陥を含む障害であり、以下の3つの基準を満たさなければならない。」と書かれている。

A. 臨床的評価および個別化、標準化された知能検査によって確かめられる、論理的思考、問題解決、計画、抽象的思考、判断、学校での学習、および経験からの学習など、知能機能の欠陥。



B. 個人の自立や社会的責任において発達的および社会文化的な水準を満たすことができなくなるという適応機能の欠陥、継続的な支援がなければ、適応上の欠陥は、家庭、学校、職場、および地域社会といった多岐にわたる環境において、コミュニケーション、社会参加、および自立した生活といった複数の日常生活における機能を限定する。

C. 知的および適応の欠陥は、発達期に発症する。

このA～Cはどのようなことを意味しているのか？

すなわち、勉強が苦手でも生活を問題なく過ごしていれば、知的能力障害ではないということを示している。

江戸時代に一部の人が寺子屋で勉強できなかった時代には、黙々と働く農家の息子が優秀であった。勉強をしていたら、「学問なんて何の役にもたたん。そんな暇があったら働け。」と怒られたものだった。勉強はなんら関係ない時代もあったのである。



勉強とは何なのだろうか。

勉強には、3つの意味があると私は思っている。

1つ目は、日常生活を過ごすために必要な勉強。

日常生活を過ごすためには何年生程度の知識が必要だろうか。私は、小学校3年生程度の知識があれば十分やっていけると思っている。日常生活では分数の計算はしないし、少数の計算などは全部計算機である。筆算は行わない。漢字については、わからなくても携帯電話や電子辞書ですぐ調べられる。買い物も財布の金額を覚えていて、この程度買うのであればこの金額で大丈夫だとわかればいい。また、キャッシュカードやお財布携帯などお金を気にしないで買える手段もいくつかある。



2つ目は、自分の可能性を探すために必要な勉強。

私たちは、さまざまな分野を勉強する。その中から、人は自分の興味あるものを知る。それが数学かもしれない、考古学かもしれない、料理かもしれない、美術かもしれない。化学、物理、社会、体育、音楽、英語など、ありとあらゆるものから自分探しをしていく。

そして、そこから自分の可能性を知っていく。



3つ目は、立ち向かう心を育てる勉強。自分の知らない知識を積み重ねていくのは、大きな壁に立ち向かうのと同じことである。言い訳をみつけて勉強しないのは、困難から逃げているのと同じである。

世界に約7億9600万人。この数字の意味がわかるだろうか。

これは、成人で読み書きできない人の数である。(日本テレビ世界一受けたい授業 2012年1月7日)

学校で教育を受けることができない環境が作った知的能力障害の数である。社会が作った知的能力障害の数である。

(奇跡がくれた宝物 小沢浩著、クリエイツかもがわ より)

